

# 「生涯をいきいきと心ふれ合う 暮らしのできるまち 二本松」



福島県 二本松市

高齢福祉課包括ケア推進係 遠藤久美子



# 【二本松市の概況】 (令和5年4月1日現在)



■ 面積:344.42km<sup>2</sup>

■ 総人口:51,807人

■ 世帯数:20,574世帯

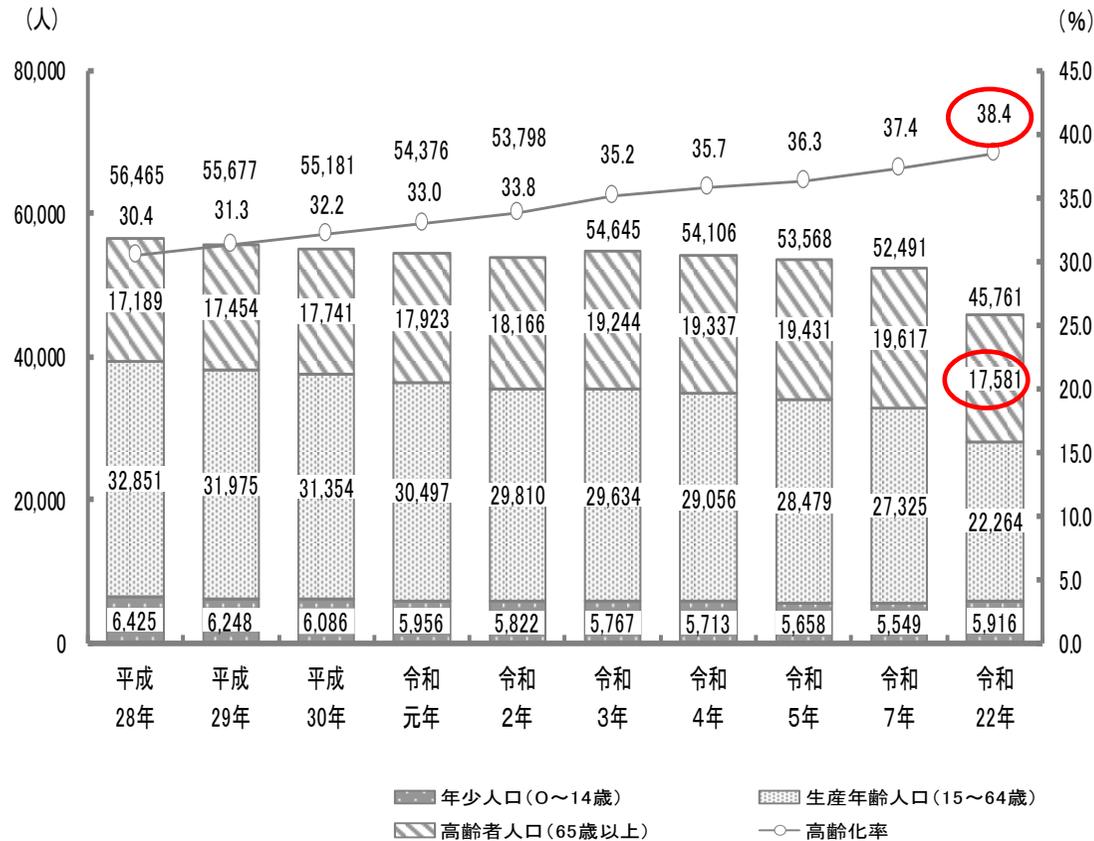
■ 高齢者人口:18,342人 (高齢化率:35.4%)

■ 後期高齢者人口:9,086人 (後期高齢者割合:17.5%)

平成17年12月1日に二本松市・安達町・岩代町・東和町が合併し、新「二本松市」が誕生。

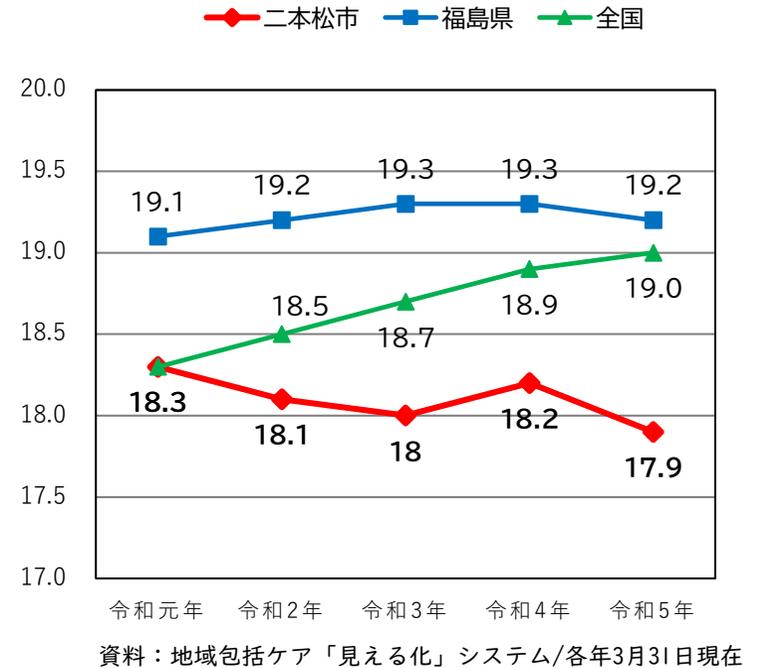
# 【高齢者の現状】

## ■本市の人口推移及び将来推計



資料：実績値は住民基本台帳（各年10月1日現在）、推計値は市総合計画目標人口

## ■本市の人口推移及び将来推計及び認定率の推移



## ■日常生活圏域毎の高齢者の特徴

|   | 生活圏域  | 人口     | 高齢者    | 高齢化率  | 認定率   | 地域特性   |
|---|-------|--------|--------|-------|-------|--|
| 1 | 二本松第1 | 14,093 | 4,535  | 32.2% | 18.2% | 市役所本庁舎、JR二本松駅、企業の本社等があり、市の中央的なエリア。医療機関や大型スーパーもあり利便性もよい。菊人形や提灯祭りで賑わう。                         |
| 2 | 二本松第2 | 4,914  | 1,848  | 37.6% | 19.5% | 生鮮食品を扱うスーパーや医療機関、薬局はない。七福神や田植踊など重要無形民俗文化財を伝承するため元小学校舎を伝承館として活用。                              |
| 3 | 二本松第3 | 10,058 | 3,371  | 33.5% | 16.7% | 農村地域や温泉街、別荘等様々な地域が混在。新興住宅がある地域では多世代交流活動が行われている。  |
| 4 | 安達    | 11,509 | 3,520  | 30.6% | 16.2% | 大型スーパーや多くの店舗が出店。賃貸住宅や新興住宅地ができ、若い世代の転入が増えている。震災復興住宅もある地域。                                     |
| 5 | 岩代    | 5,844  | 2,641  | 45.2% | 17.6% | 城下町から山間部にかけて東西に広がる。医療機関や商店が少なく、バスの本数も限られている。山間部は隣町に出掛ける。介護サービス事業所も少ない。                       |
| 6 | 東和    | 5,389  | 2,430  | 45.1% | 21.4% | 地域特性は岩代地域同様。中山間地、かつては養蚕地帯で桑の栽培が盛んであったが、養蚕に代わり気候を生かした野菜や米を中心とした農業が盛ん。介護保険は要支援より要介護認定を受ける人が多い。 |
|   | 合計    | 51,807 | 18,345 | 35.4% | 18.0% |  |

## ■日常生活圏域ニーズ調査の結果より

Q. 認知症になったらどのように暮らしたいか

➡57.4%（約6割）は地域（自宅）で暮らしたい。

➡2割弱の方は「身の回りのことができなくなる」「周りの人に迷惑をかけてしまう」ことを理由に介護施設で暮らしたい。➡周囲の見守りや支え合いにより、身の回りのことができれば在宅生活を選択できる！？

Q. 人生の最期を迎える場所として、どこを希望しますか

➡①自宅47.7%、②病院12.2%、③介護施設6.4%

Q. 介護が必要になった時、どこで介護を受けたいですか

➡①介護施設33.8%、②自宅31.3%、③病院6.3%

本当は地域（住み慣れた、なじみの関係の中）で暮らしたい！！

Q. 今後の在宅生活に必要と感じる支援・サービスは？

➡

| 支援・サービス        | 令和2年度 | 令和5年度 |
|----------------|-------|-------|
| 外出同行（通院・買い物）   | 10.1% | 21.5% |
| 移送サービス（介護タクシー） | 12.4% | 28.5% |

外出や移送に関するニーズが2倍増！！

## ■地域福祉計画市民アンケートの結果より

Q. 地区の人に手助けしてほしいこと（70歳以上）

| 内容（ベスト5）   | 回答割合  |
|------------|-------|
| 緊急時の手助け    | 25.6% |
| 日常の見守りや声かけ | 18.9% |
| 草刈りの手伝い    | 16.9% |
| 雪かきの手伝い    | 11.9% |
| 話し相手になること  | 11.9% |

※「特にない」「無回答」は43.6%

Q. 地区に人に対して手助けできること、  
したいこと（全年齢）

| 内容（ベスト6）   | 回答割合  |
|------------|-------|
| 日常の見守りや声かけ | 32.0% |
| 話し相手になること  | 24.4% |
| 緊急時の手助け    | 23.9% |
| 雪かきの手伝い    | 16.9% |
| 草刈りの手伝い    | 15.9% |
| ゴミ出しの手伝い   | 7.6%  |

※「特にない」「無回答」は33.3%

約7割の方が地区の人に対し、「手助けできる・したい」と思っている！！

## 〈二本松市のあるべき姿〉

### 「地域とのつながりをもちながら、困ったときに支え合いながら暮らせる地域」

- ◎ 地域の「つながり」を活かした「支え合い」の関係を維持・強化し、ニーズ調査等から把握された課題解決のための生活支援体制整備を進めていきたい。

## 〈進めていきたい方向性〉

### ①地域のつながりから、「頼める」「頼まれる」関係づくり

※人生の最期を迎える場所として、また、認知症になっても「在宅」を希望する方が多い。

※約7割の方が、地区の住民に対して手助けができる・したいと思っている。

### ②移送・外出支援の体制づくり

※今後の在宅生活の継続に、「外出同行」や「移送サービス」を挙げている方が3年間で2倍に増加。

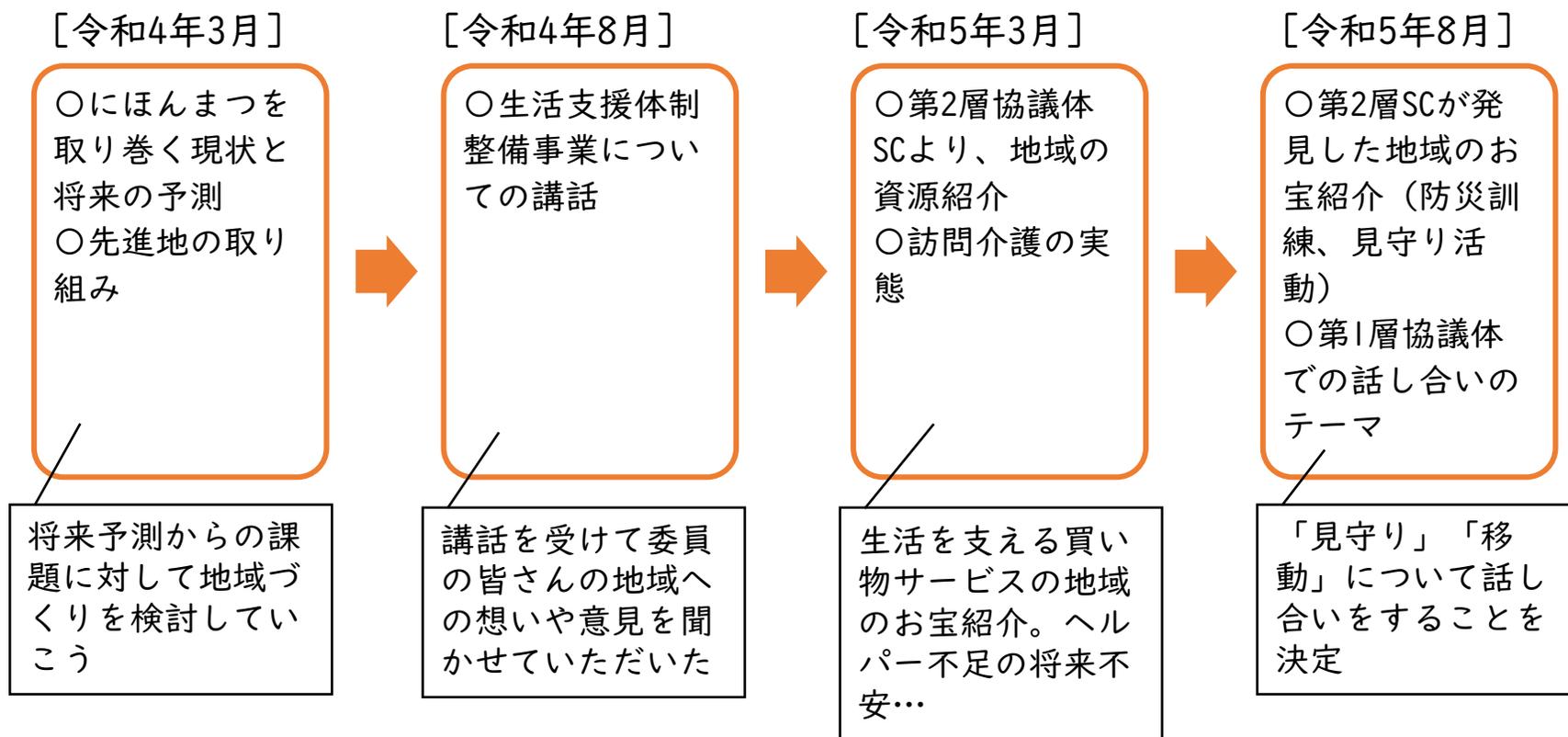
# 【生活支援体制整備事業の現状】

## ■生活支援コーディネーター配置状況

〈第1層〉市1名（高齢福祉課包括ケア推進係長）

〈第2層〉市社会福祉協議会に委託し、5名配置（日常生活圏域6箇所）

## ■第1層協議体の取組



# 【伴走支援にエントリーした理由、 相談したい内容】

## ■エントリーした理由

当市は協議体設置を含め、住民との話し合い、関係機関との連携等、進捗が遅れていると感じている。今後、生活支援体制整備事業から地域づくりを進めていくにあたり、当市の進め方に不安があるため。

〈課題1〉 協議体設置後の話し合いから地域の支え合いの体制をつくっていくことが重要だが、第2層協議体設置が進まない中、設置がゴールになりつつある。

〈課題2〉 第1層協議体、第2層協議体ともに地域の課題や資源の情報交換をしている段階であり、第1層協議体で評価するまでには至っていない。

## ■相談したい内容

地域支え合いの体制づくりや介護予防・生活支援サービスにつながるような協議体運営を行っていきたい。協議体運営を含む、事業の進め方について支援いただきたい。

# 【伴走支援Ⅰ回目】 令和5年10月12日

〈出席者〉 市役所高齢福祉課職員

(課長、長寿福祉係長、介護保険係長・係員、包括ケア推進係長・係員)

(計7名)

〈内容〉

- ①地域づくりの加速化事業の概要説明
- ②地域づくり加速化事業の伴走支援（全3回）の進め方のイメージ説明
- ③二本松市の現状・課題について
- ④市の現状・強みの把握
- ⑤ミニ講話「地域包括ケア・地域づくりとは何か」
- ⑥意見交換Ⅰ  
「二本松市のありたい姿に向かって課題の洗い出し・深堀」  
～生活支援体制整備事業を活用して何をする？～
- ⑦全体での意見交換Ⅱ  
「ありたい姿に向かって市の強み・弱みを整理する」  
～生活支援体制整備事業を活用してできること～
- ⑧振り返り
  - ・ここまでの整理
  - ・今後、つながりたい人やどんな情報が必要か



# 【伴走支援2回目】 令和5年11月7日

- 〈出席者〉・地域包括支援センター（管理者・認知症地域支援推進員）  
・生活支援コーディネーター ・介護支援専門員  
・市役所高齢福祉課職員

（計22名）

## 〈内容〉

- ①ミニ講話「地域包括ケア・地域づくりについて」
- ②前回の振り返り
- ③グループワーク1  
「地域ごとの特徴や課題を解決するアイデア出し」
- ④グループワーク2  
「優先順位の整理」
- ⑤グループワーク3  
「ありたい姿に向かってそれぞれの立場でできることを考えよう」
- ⑥全体での共有
- ⑦全体でのまとめ
  - ・今後どんなことに取り組みそうか
  - ・役割分担など



# 【伴走支援3回目】 令和6年1月12日

〈出席者〉 ・ 第1層協議体構成員（7名） ・ 市役所高齢福祉課職員  
・ 生活支援コーディネーター ・ 地域包括支援センター （計21名）

## 〈内容〉

◆ 第1層協議体（第5回目）と伴走支援3回目を併せた形で開催

- ① アドバイザー講話  
「生活支援体制整備事業による地域づくりの促進について」
- ② 二本松市の現状と課題について
- ③ 第2層協議体の取組と第1層協議体の役割について」
- ④ 意見交換（第1層協議体構成員・地域包括支援センター・生活支援コーディネーター）
- ⑤ まとめ



# 【伴走支援での気づきや学び】

## ■第1回支援

- ・課内各系の業務は様々だが、目指している方向性は同じ。（「根っこ」は同じ。）
- ・「伝え下手」：市のあるべき姿や進めていきたい方向性等が関係者・関係機関に伝わっていない。そのため、それぞれの役割が十分に発揮できていない。

➡市のあるべき姿や進めていきたい方向性等を関係者と共有し、合意形成が必須！！

## ■第2回支援

- ・関係者・関係機関（生活支援コーディネーターや地域包括支援センター職員、介護支援専門員等）に市のあるべき姿や進めていきたい方向性について説明し、目線合わせのうえ、話し合う機会ができた。
- ・地域課題の優先順位を整理する手法、自分の立場でできそうなアイデアを効果的にまとめる手法について学んだ。

➡関係者・関係機関等と合意形成し、話し合いを進めていく手法の体験ができた。

## ■第3回支援

- ・関係者・関係機関（第1層協議体構成員）に説明し、市のあるべき姿や進めていきたい方向性について説明し、目線合わせ及び第1層協議体の役割について整理ができた。

➡関係者・関係機関等と合意形成しながら話し合っていく必要性。第1層、第2層の役割や関係性について理解することで、効果的な話し合いができる。

# 【伴走支援の成果】

## ○関係者・関係機関との目線合わせ

- ・市の「あるべき姿」「進めてきたい方向性」について、係内、課内で初めて具体的に意見を出し合うことができた。業務内容は違っていても、目指している方向性は同じであることを再確認できた。
- ・伴走支援3回を通して、関係する方々を広げながら、根拠を含めて説明し、目線合わせができたと感じている。
- ・第1層と第2層の役割や関係性について理解することで、効果的な話し合いにつながる。

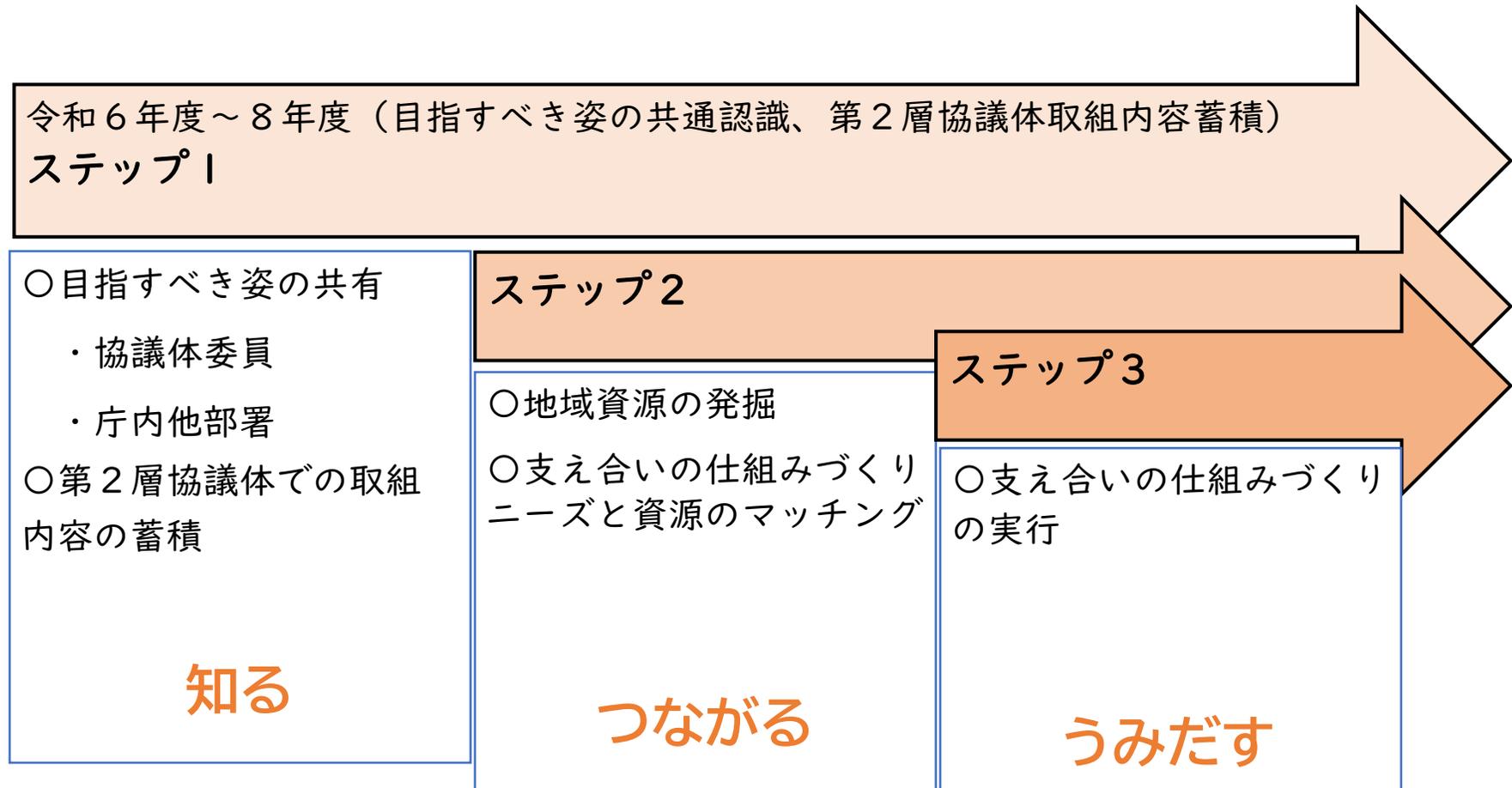
## ○地域の課題及び優先順位を整理する手法（マトリックス）、アイデアを効果的にまとめるための方法などの習得⇒実践

- ・地域の課題を手法（マトリックス）を活用し、優先順位を整理、決定して進める体験することができた。 \* 「地域の強み」をまとめるシートの活用
- ・課題に対するアイデア出しでは、「自分の立場でできそうなこと」の視点でワークシートに残し、参加者で共有。取組内容が決まったら実行し、シートにも残すことで進捗状況の把握にもつながる。

⇒第2層協議体で取組開始！！



# 【生活支援体制整備のロードマップ（目標案）】





その人が、  
その人らしく  
生きていく

協議体の「実」

つながりを  
すこしづつ